

令和7年度 国立赤城青少年交流の家 教育事業

「親子キャンプ～クリスマス編～」

1. 趣旨

クリスマスイベントに関わるレクリエーションや森の散策等の野外活動を通じて、自然に親しむとともに親子の交流を深める。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和7年12月13日（土）～12月14日（日）【1泊2日】

(2) 参加者

①参加対象

小学校1～2年生とその保護者 ※兄弟姉妹がいる場合も参加可

②参加人数

26名（10家族）

3. 企画運営のポイント

- (1) 季節の行事であるクリスマスに関するプログラムを通して親子の交流を深めるとともに、つながりをテーマに森の散策等の野外活動を取り入れ、自然に親しむ機会を設ける。
- (2) 法人ボランティアが企画、運営をする自主企画事業でもあるため、法人ボランティアと連携を密に図り、趣旨に沿った事業となるよう計画を進める。

4. 日程

| | 午 前 | 午 後 |
|---------------|--|---|
| 12月13日 (土) | | 開会式 わくわくタイム (アイスブレイク・森の散策) クリスマスクラフト (フォトフレーム、ランタン) キャンドルナイト (紙芝居、レクリエーション) |
| 12月14日 (日) | 朝のつどい クリスマス会 (ケーキ作り、レクリエーション) 閉会式 | |

5. 主な活動内容



わくわくタイム
(アイスブレイク)



わくわくタイム
(森の散策)



クリスマスクラフト
(フォトフレーム)



キャンドルナイト



クリスマス会
(ケーキ作り)



クリスマス会
(レクリエーション)

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足9家族（90%） やや満足1家族（10%） やや不満0家族 不満0家族

(2) 参加者の声

- ・親子キャンプというイベントに初めて参加させていただいて、家での生活とはまたがる集団での行動は、きっと娘にもいい経験になったと思う。
- ・「森の散策」では、カード探しや、フォトフレームの材料探しが楽しかった。森の中を散策という体験は初めてでいい経験になった。
- ・「クリスマスクラフト」は、自分たちで探した材料をつかってつくる写真フレームがいいおみやげになった。
- ・「キャンドルナイト」では、子供がキャンドルを持つことはそうそうないので、良い体験をさせていただいた。本人も楽しかったと言っていた。
- ・「クリスマス会」のケーキ作りでは、子供が率先して作ってくれ、子供の成長を感じることができてよかったです。

(3) 成果

- ・事業全体を通してボランティアが主体となり、企画・運営を含め、それぞれが考えながら行動することができていた。ボランティアからも、子供たちと直接関わったことが有意義であり、自分の役割を考えながら活動する良い機会になったとの振り返りがあった。参加者アンケートからも、主体的に子供に接してくれてありがたかった等の肯定的な意見が多く寄せられた。
- ・“つながり”をテーマに掲げたことで、森の散策がフォトフレームに、ランタンがキャンドルナイトにつながる等、それぞれのプログラムの意義を深めることができた。また、親子のつながりや、参加者とスタッフのつながりも見られた。さらに、子供たちが早起きをして自主的に片づけをする様子なども耳に入り、自立という過程において未来につながるものになったとも言える。

(4) 課題

- ・クラフト作成や入浴の時間が短いように感じられた。親子の交流という事業目的を達成するために、十分なゆとりもったプログラム編成をする必要がある。